

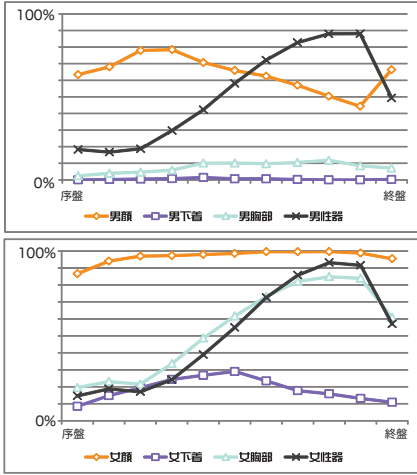
●エロマンガを統計的に分析してみた



性に関する研究、特にメディアにおける研究は数多くありますが、その興味と影響の大きさに対して、提供できるデータが少ないことが問題だと考えています。そこでゆるめの統計エンターテイメント同人誌「エロマンガ統計シリーズ」を地味に続けています。規制などについても、現状では、「とにかく、けしからんものはけしからん」という、感情論、印象論で議論が進められていることが多いです。そこに対して、「数字」という武器で防衛していくことができるのではないかと考えています。楽しくデータを読み込み、建設的な世の中になって欲しいと思っています。

※なお、分析はエロマンガ雑誌 10 誌 245 作品 4828 ページを、職人が 1 ページずつ丁寧に集計、分析いたしました。

▼身体パーツの出現率



身体パーツを見ると、序盤では顔を出していた男性が、中盤以降では性器と交代する形になっています。性器があれば男性キャラの顔なんて必要ないということでしょうか。表情などの人間らしさよりも「性器である」ことが求められる寂しさが男性にはあるのではないのでしょうか。

【つまり】
性器は男の顔の一部です。

▼視点とプレイ内容

※独立性の検定を行った結果が有意であったとき、どのセルが全体に比べて有意かを記しています。比率の差が5%有意に低い場合には↓、高い場合には↑を記し、1%有意の場合は□で囲っています。

	和姦	強姦	混合	全体
男視点	↑127	↓8	4	139
女視点	↓74	↑27	5	106
全体	201	35	9	245

$\chi^2=20.3 \text{ } p<0.01$

	女主導	男主導	全体
男視点	↑86	↓53	139
女視点	↓47	↑59	106
全体	133	112	245

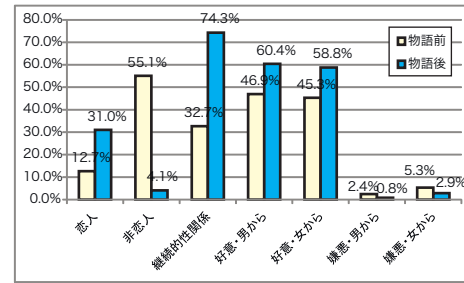
$\chi^2=7.45 \text{ } p<0.01$

「私、●●子、ごく普通の……」で始まる女性視点の作品と、「うー、トイレトイレ」のような男性視点の作品があります。その視点と強姦/和姦、性関係に入るための主導権(どちらが誘ったか)の関係がこちらになります。

表を見ると、視点になるキャラは主導権を持っていない傾向にあり、読者が「犯される」立場であるキャラに感情移入しているのかもかもしれません。エロマンガ読者は「犯したいんじゃない、犯されたいんだ」と受身的に愉しんでいるのではないのでしょうか。

【つまり】
エロマンガを読んだ影響で草食系になってしまう!?

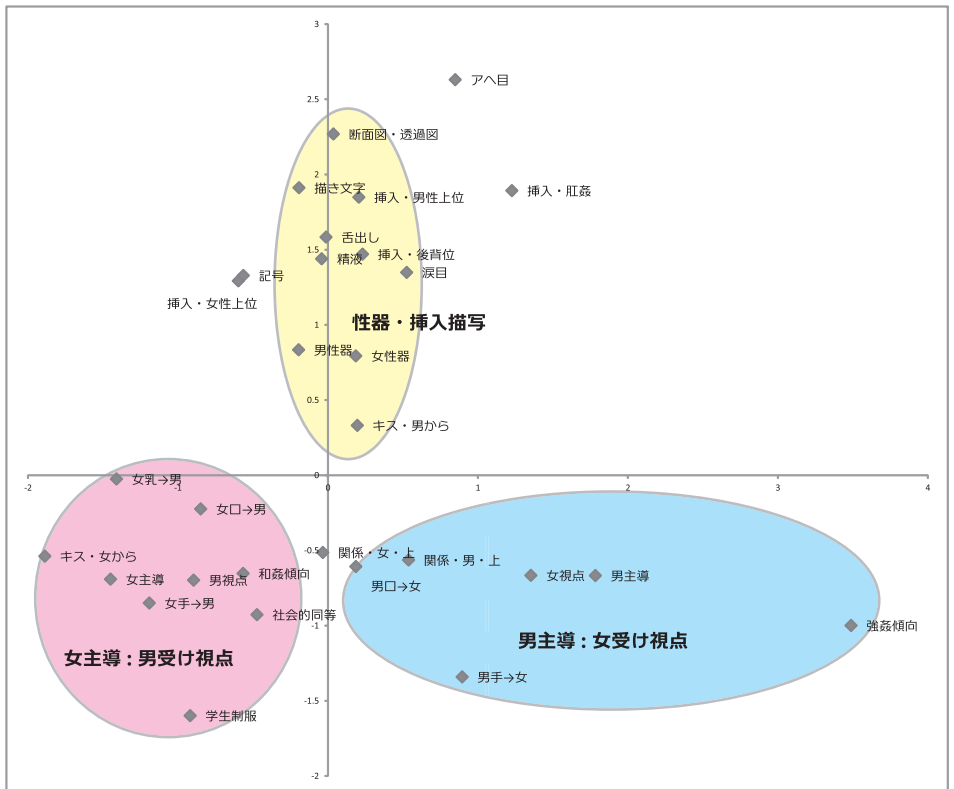
▼関係性の変化



エロマンガの物語の前後で、関係性がどう変わっているかの集計ですが、恋人でなかった関係が、終了後に恋人になったり、継続的な性関係になったりと、また好意を確認できるようになっています。エロマンガは性を通じて、恋愛関係、性的関係を「獲得する」という物語であり、最初から恋人、最初から性的関係があると物語的に展開しにくい、というのも理由として考えられます。

【つまり】
エロマンガにも愛はある。ただヤルだけじゃない。

▼多変量解析 (数量化3類分析)



近くにデータがあったら似ているデータ、という数量化3類。「主導権と受け攻め」の関係が明確に見えました。主導権を持った方が攻めの役をこなし、読者は受け側の視点に移入して物語を読む傾向にあると言えます。また、挿入関連でひとつにグループをまとめましたが、その中でも性器の描写については左右に分かれて攻められる方でより多く描かれていたり、描き文字 = 台詞で能動的に快楽を表現することと、涙目 = 涙が出てしまうことによって受動的に快楽を表現することでそれぞれの方向性が分かれていることなどが見えます。また、女性上位(騎乗位)は女性主導側、アナルセックスやアヘ目といったハードな印象のプレイについては男性主導側。挿入体位には主導権や関係性など、社会的な意味が含まれていることが、統計的に分析できました。

【つまり】
エロマンガは性行為だけでなく「関係性」も見ている。

